

滋賀地域交通ビジョン策定に向けた進捗状況について

資料2-1

1 概要

本県の地域交通を取り巻く社会環境は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う新たな生活スタイルの浸透や、新しい技術・仕組みの実装が進むなど、近年大きく変化している。

このような中で、利用者の減少、運転手不足に加え、コロナ禍により交通事業者の経営環境は極めて悪化しており、このままでは地域交通の維持は困難な状況にあることから、「重要な社会インフラ」である地域交通の将来にわたる維持・活性化に向け、「誰もが、行きたいときに、行きたいところに移動ができる」滋賀の地域交通の実現を目指す、「滋賀地域交通ビジョン」を策定する。

2 滋賀地域交通ビジョン策定に向けた進捗状況

別添資料<滋賀地域交通ビジョン策定に向けた進捗状況>のとおり

3 今後の主な予定

※適宜、県議会へ検討状況を報告・議論

令和5年 7月～10月 滋賀の公共交通未来アイデア会議(県民トーク、県民フォーラム)

11月 第4回 滋賀地域交通ビジョン策定に向けた懇話会
・「ビジョン素案」検討

令和6年 12月～
1月 パブリックコメント

1月末 第5回 滋賀地域交通ビジョン策定に向けた懇話会
・「ビジョン案」検討

別添資料

滋賀地域交通ビジョン 策定に向けた進捗状況

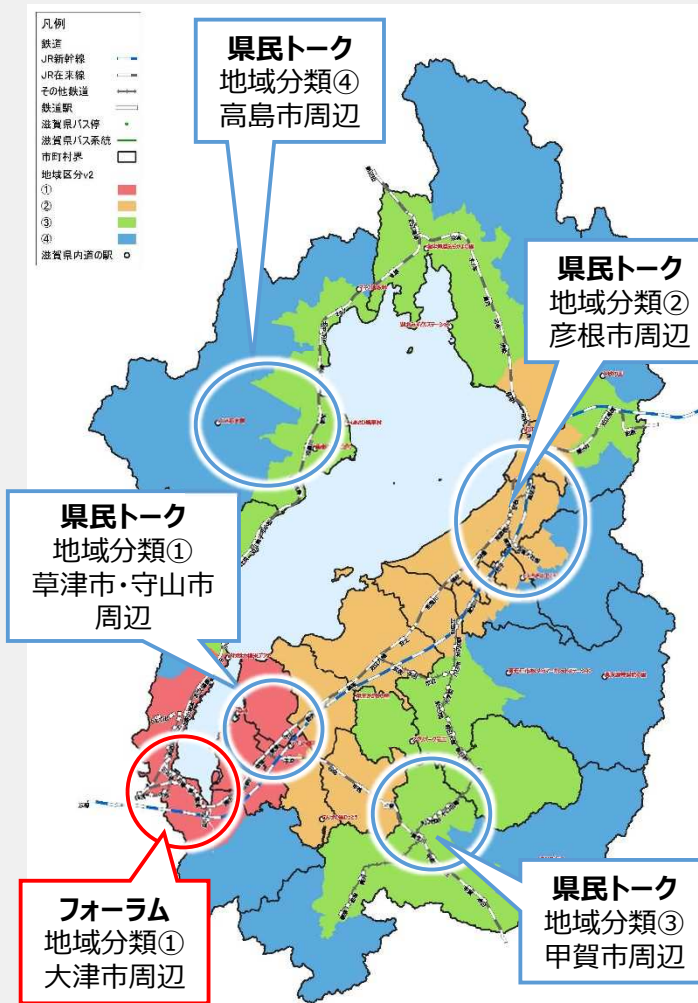
土木交通部交通戦略課



滋賀の公共交通未来アイデア会議の概要（1）

目指す地域交通の姿等について、県民の意見やアイデアをいただく活動として「滋賀の公共交通未来アイデア会議」（「県民トーク」、「県民フォーラム」）を開催

イベント		県民トーク				県民フォーラム
形式		<ul style="list-style-type: none"> 職員が各施設へ出向き、タブレットを持って「将来の公共交通として求めるレベル」、「公共交通の問題点や課題」、「費用負担の方法の意向」等をアンケート形式で来訪者と対話 時間のある方には動画「SHIGA SMART ACCESS 2040S」を視聴いただき、公共交通の課題を解決するための望む施策等についても意見聴取 				<ul style="list-style-type: none"> 県民トークの結果等を踏まえ、県民同士でも意見交換する
	地域分類	①	②	③	④	①
候補地	エリア	守山市・草津市周辺	彦根市周辺	甲賀市周辺	高島市周辺	大津市周辺
	施設種類	病院	商業施設	商業施設	道の駅	商業施設
	名称	滋賀県立総合病院（ロビー）	イオンタウン彦根	アル・プラザ水口	道の駅 くつき新本陣	イオンシネマ草津
主なターゲット層		通院患者およびその家族	若年層ファミリー層	ファミリー層車利用者	車利用者	県民全体（WEB併用）



2

※県民トークは上記4箇所とは別に県内市役所・町役場庁舎でも実施（全19回）

※その他、高校生、大学生、交通事業者とも対話をする予定

滋賀の公共交通未来アイデア会議の概要（2）

概要

- **実施時期** : 令和5年7月18日(月)～令和5年10月28日(土)
- **実施内容** : 属性、公共交通の利用状況、必要性に対する意向、費用負担意向等を把握
- **実施形式** : ①アンケート（WEB）
 ※ポスター・チラシ上にQRコード掲載
 ②県民トーク（対面）
 ※滋賀県内各地で施設訪問者に対し、アンケート形式でヒアリングを実施
 ③県民フォーラム（対面＋WEB）
 ※イオンシネマ草津を会場に、参加者がアイデアを共有するフォーラムを開催
- **アンケート回収数** :

①	76通
②	604通
計	680通

※2023/08/28時点

県民トーク実施場所：守山市役所、長浜市役所、甲良町役場、道の駅くつき新本陣、東近江市役所、甲賀市役所、竜王町役場、アル・プラザ水口、イオンタウン彦根、愛荘町、米原市役所、滋賀県立総合病院

▼ポスター

SHIGA SMART ACCESS 2040

あなたの意見が滋賀の未来を変える！

滋賀の公共交通 未来アイデア会議

滋賀県では、公共交通ネットワークの維持・活性化を目的し「滋賀地域交通ビジョン」策定に向けた検討を進めています。最良の路線にも、これからの公共交通について一層に考えていただき、滋賀のより良い未来に向けたアイデアを共有しましょう！

会議に参加して、あなたのアイデアを共有してください！

2023年7～8月 （お盆期間を除く、全県でご参加ください） ※県民は対象外です。 ※県民は対象外です。	2023年10月28日(土) （13:00～15:00予定（入場は12時～）） ※県民は対象外です。
会場：道の駅くつき新本陣 7/30(日) 8:00～11:00 8/9(水) 10:00～12:00 8/11(金) 10:00～12:00 8/25(金) 9:00～14:00	会場：イオンシネマ草津（イオンモール草津2F） 対象施設（定員300名程度）・オンライン配信（予定） 会場：イオンタウン彦根 会場：滋賀県立総合病院

上記以外にも会議は開催予定です！
詳細はウェブサイト、Twitterでお知らせします。
Twitterのフォローをお願いします。

QRコード

※この会議にも参加できない方！
以下のQRコードのアンケートより
アイデアを共有してください。

（注）滋賀県「第1期」公共交通未来アイデア実行委員会（075-326-1000）までお問い合わせください。

県民トーク

①概要

【県内4箇所】

日時	場所	回答数
7/30(日) 8:00~12:00	道の駅くつき新本陣	101
8/9(水) 10:00~17:00	アル・プラザ水口	54
8/11(金) 10:00~17:00	イオンタウン彦根	74
8/25(金) 9:00~16:00	滋賀県立総合病院	71

▼道の駅くつき新本陣



▼イオンタウン彦根



▼滋賀県立総合病院



【県内市役所・町役場庁舎】

日時	場所	回答数
7/18(火)9:00~16:00	守山市役所	54
7/25(火)9:00~16:00	長浜市役所	54
7/27(木)9:00~15:00	甲良町役場	22
8/1(火)9:00~16:00	東近江市役所	50
8/3(木)9:00~16:00	甲賀市役所	51
8/8(火)9:00~15:00	竜王町役場	18
8/22(火)9:00~16:00	愛荘町役場	18
8/24(木)9:00~16:00	米原市役所	37
9/5(火)9:00~16:00	近江八幡市役所	—
9/7(木)9:00~16:00	栗東市役所	—
9/19(火)9:00~16:00	高島市役所	—
9/20(水)9:00~16:00	草津市役所	—
10/10(火)9:00~16:00	大津市役所	—
10/12(木)9:00~16:00	湖南市役所	—
10/17(火)9:00~16:00	日野町役場	—
10/18(水)9:00~16:00	彦根市役所	—
10/19(木)9:00~16:00	野洲市役所	—
10/24(火)9:00~16:00	多賀町役場	—
10/26(木)9:00~16:00	豊郷町役場	—

県民トーク

①概要 対話状況

▼守山市役所



▼道の駅くつき新本陣



▼甲賀市役所



▼イオンタウン彦根



県民トーク

①概要 質問一覧

【県内居住者①】

Q1 あなたにとって公共交通は必要ですか？

- ①必要である
- ②必要でない

**Q2 なぜ必要なのか、以下より当てはまるものを選択ください
(複数選択)**

- ①自身が公共交通を使うから
- ②日常的に関わりがある親族が公共交通を使うから
- ③自身や親族は使わないが他の人にとって必要と思うから
- ④その他

**Q3 なぜ必要でないか、その理由を教えてください
(最も近いものを選択)**

- ①公共交通を使わないから
- ②公共交通を使うが、無くても困らないから
- ③その他

**Q4 あなたが日常的に関わりがある親族の中で公共交通
を利用している人を選択ください**

- ①配偶者②兄弟・姉妹③子供④父母・祖父母
- ⑤孫⑥その他の親族⑦誰も使っていない

**Q5 前問で選択した親族のそれぞれの主な公共交通利用
目的を選択ください**

- ①通勤②通学③通院④福祉⑤レジャー⑥買物
- ⑦習い事⑧食事⑨その他

**Q6 公共交通があることで可能となっている、助かっている
具体例についてお答えください**

**Q7 現在の影響や将来の影響を踏まえた上であなたにとっ
て公共交通は必要ですか？**

- ①必要である
- ②必要でない

Q8 なぜ必要でないか、その理由を教えてください

- ①負担増やコスト増の影響よりも公共交通以外の移動手段
(自家用車等)のメリットの方が大きいと思うから
- ②負担増やコスト増の影響よりも公共交通を使うことによるデ
メリットの方が大きいと思うから
- ③現在の移動手段以外の移動は考えられないから
- ④その他

**Q9 多面的な効果を踏まえて、あなた自身が利用するかどう
かに関わらず公共交通の必要性についてお答えください**

- ①必要と思う
- ②どちらかと言えば必要と思う
- ③どちらかと言えば必要でないと思う
- ④必要でないと思う

県民トーク

①概要 質問一覧

【県内居住者②】

Q10 動画のような将来になった場合の公共交通の利用意向についてお答えください

- ①積極的に利用する
- ②どちらかと言えば利用する
- ③どちらかと言えば利用しない
- ④利用しない

Q11 動画を踏まえ、将来の公共交通として望ましいレベルについてあなたの考えをお答えください

- ①現状よりもサービスレベルが下がって良い
- ②現状維持
- ③動画までは不要だが今よりもサービス向上
- ④動画と同程度・それ以上のサービスレベル

Q12 サービス向上に向けて、現状の公共交通におけるあなたが思う問題点・課題をお答えください

また、その問題点・課題を解決するために望む施策をお答えください

Q13 公共交通の維持・活性化に対してあなたができる行動についてお答えください

- ①公共交通を利用する、もっと利用する
- ②公共交通維持・発展のための負担
- ③その他

Q14 新たな負担が必要となった場合に、どのような方法が望ましいか以下から選択ください（上位3つまで）

- ①運賃値上げ
- ②税負担（利用者から徴収）
- ③税負担（県民全員から徴収）
- ④税負担（県外来訪者も含め全員から徴収）
- ⑤税負担（企業から徴収）
- ⑥乗車券定期購入（利用有無に関わらず毎月一定額の乗車券を購入）
- ⑦その他

Q15 負担する場合の許容額（現状に対して追加で支払っても良いと思う上限額）について以下から選択ください

- ①100円/月増（年間1,200円）
- ②300円/月増（年間3,600円）
- ③500円/月増（年間6,000円）
- ④1,000円/月増（年間12,000円）
- ⑤1,500円/月増（年間18,000円）
- ⑥2,000円/月増（年間24,000円）
- ⑦3,000円/月増（年間36,000円）
- ⑧上記以上

県民トーク

①概要 質問一覧

【県外居住者】

Q1 滋賀県へ来訪する主な目的について以下から選択ください

- ①通勤②通学③観光・レジャー④通院・福祉
- ⑤習い事⑥買物⑦食事⑧業務⑨その他

Q2 滋賀県へ来訪する主な来訪手段について以下から選択ください

- ①鉄道②高速バス③路線バス④自動車
- ⑤自転車⑥徒歩⑦その他

Q3 滋賀県への来訪頻度について以下から選択ください

- ①ほぼ毎日②週に3～4日程度
- ③週に1～2日程度
- ④月に数日程度⑤年に数日程度
- ⑥ほぼ使わない⑦使ったことはない

Q4 公共交通のおかれている状況(負のスパイラル・赤字状況・補助金の状況)について、認知状況を以下よりお選びください

- ①知っていた
- ②聞いたことがある程度
- ③知らなかった

Q5 滋賀県においても前問の全国的な公共交通の状況と同様に、公共交通の存続が厳しい状況にあります。このような状況の中、現在、滋賀県では県内の公共交通の維持・活性化のために新たな負担について議論をしているところですが、滋賀県の新たな負担の議論について知っていましたか

- ①知っていた
- ②聞いたことがある程度
- ③知らなかった

Q6 滋賀県の公共交通の維持・活性化のために新たな負担を求めることに対してどのように思いますか

※滋賀県の来訪時等に負担が発生するものとし、あなたが負担する立場にある状況を想定してお答えください。

- ①一部負担しても良いと思う
- ②一部負担はどちらかと言うとしても良いと思う
- ③一部負担はどちらかと言うとしても良いとは思わない
- ④一部負担はしても良いとは思わない
- ⑤一部負担はしても良いとは思わないが負担はやむを得ない

県民トーク

①概要

対話例



公共交通があることで遠くの高校に通学できる。彦根発米原方面行の始発電車の時刻が遅いので、早くしてほしい。(男性・10代)



出張時に使うため公共交通は必要。職場は公共交通を使わなくても通える距離だが、同僚たちは8割公共交通を利用しており、駅から徒歩20分ほどの距離で苦勞している。公共交通が使いやすければ車を手放す選択肢はある。公共交通の充実のためには、車利用者への負担が良いのでは。(男性・30代)



移動手段としては電車を選択したい。公共交通があることで子どもが通学に利用しており、自身も飲み会の帰りに利用している。事故の発生時に長時間待たされることと、密になりやすい点が気になる。(女性・30代)



公共交通を利用すると移動時に寝ていられるのが便利。ただベビーカーの利用はしづらく、運行本数も少ない。(女性・30代)



足が悪く、デマンドは利用できないが通院でタクシーを呼んでも空きがなければ来ないので利用できない。通院や市役所などの足になる路線バスは最低限必要であり、もっとお年寄りや不自由な人にやさしい公共交通にしてほしい。(女性・70代)

県民トーク

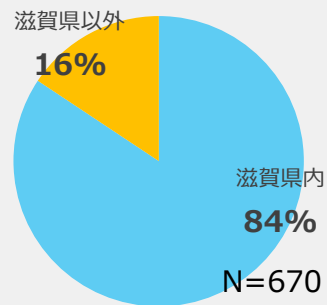
②対話結果 (2023年8月28日時点) 回答者属性等

- 回答者のうち県内居住者が8割以上で、年代は県内・県外居住者ともに40,50代が多い
- 公共交通の利用頻度は、県内居住者は年に数日程度以下が半数以上

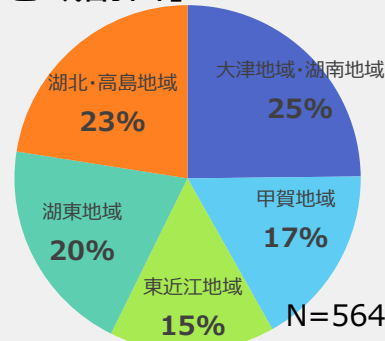
【回答者属性 (県内・県外共通)】

Q：居住地

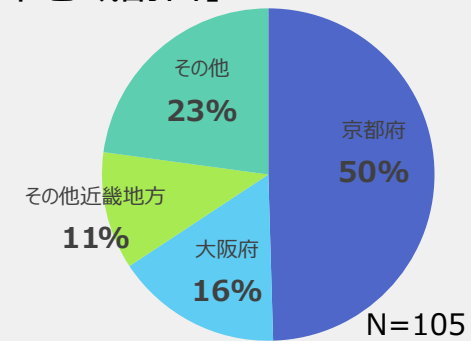
【全体】



【県内地域割合】



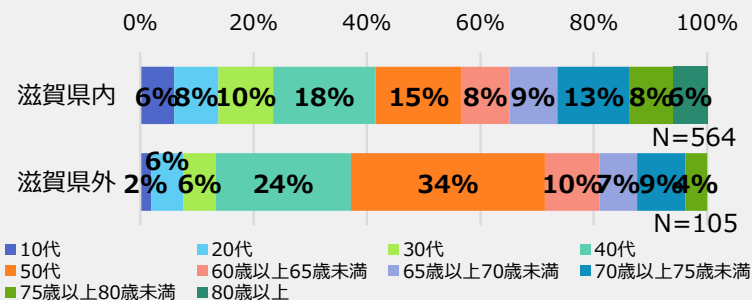
【県外地域割合】



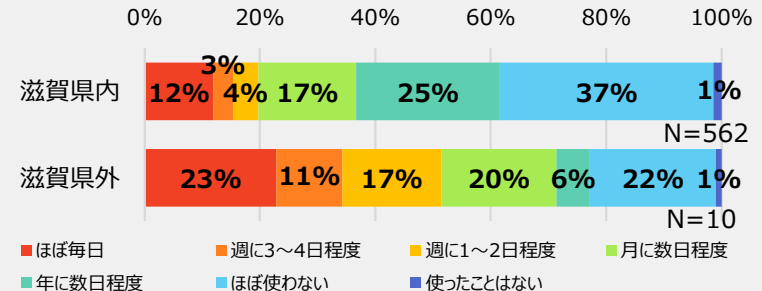
大津地域・湖南地域 (大津市・草津市・守山市・栗東市・野洲市)、甲賀地域 (甲賀市・湖南市)、東近江地域 (近江八幡市・東近江市・日野町・竜王町)、湖東地域 (彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町)、湖北・高島地域 (米原市・長浜市・高島市)

その他近畿地方 (福井県・兵庫県・奈良県・和歌山県)

Q：年代



Q：公共交通の利用頻度

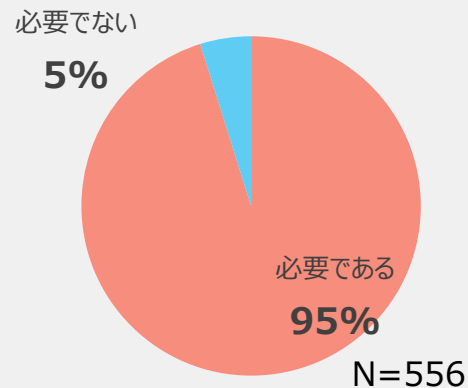


県民トーク

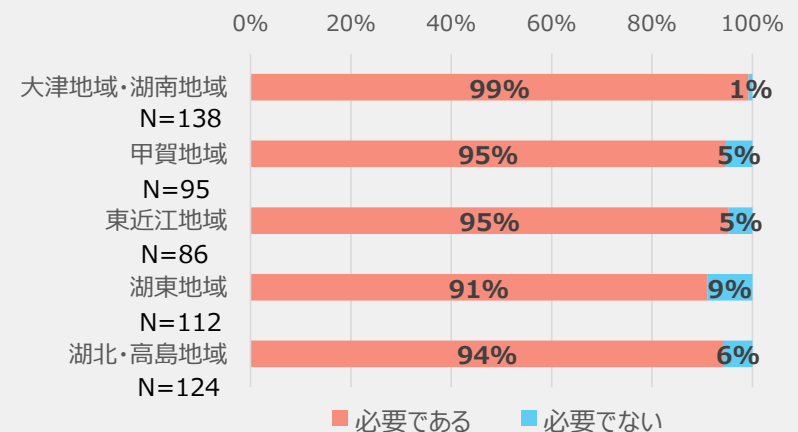
②対話結果 県内居住者 公共交通の必要性

●公共交通の必要性は全ての地域において9割以上が「必要である」と回答し、その理由としては「自身が公共交通を使うから」が約6割

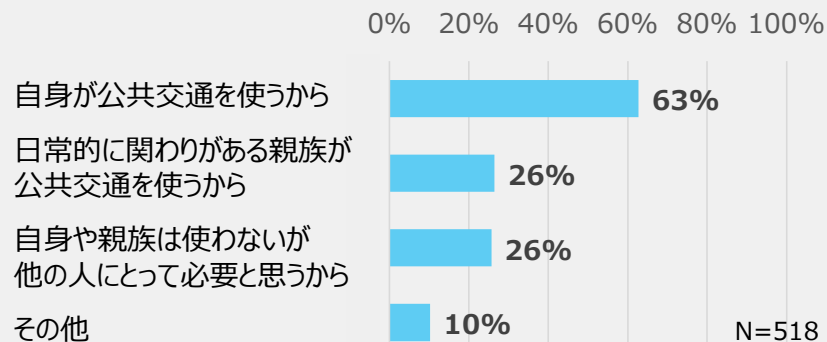
▼公共交通の必要性（全体）



▼公共交通の必要性（地域別）



▼必要な理由



▼公共交通があることで実現できている具体例

- 遠くに出かけるときに便利・楽
- 出かけた先でお酒を飲むことができる
- 運転免許を持っていない人や免許を返納した人にとって必要
- 通勤・通学の選択肢が広がる

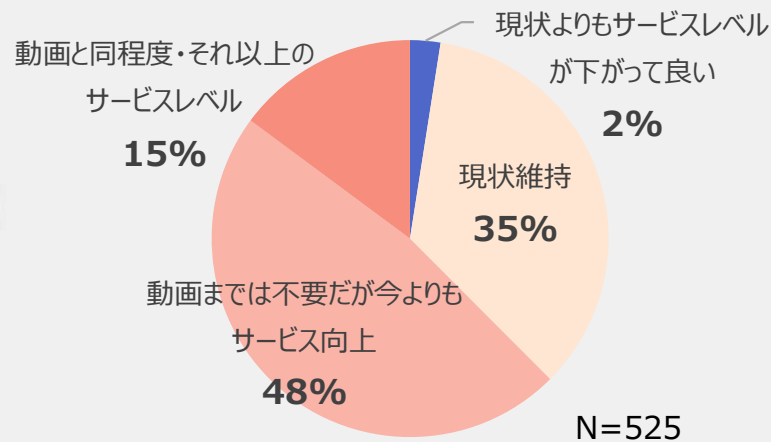
等

県民トーク

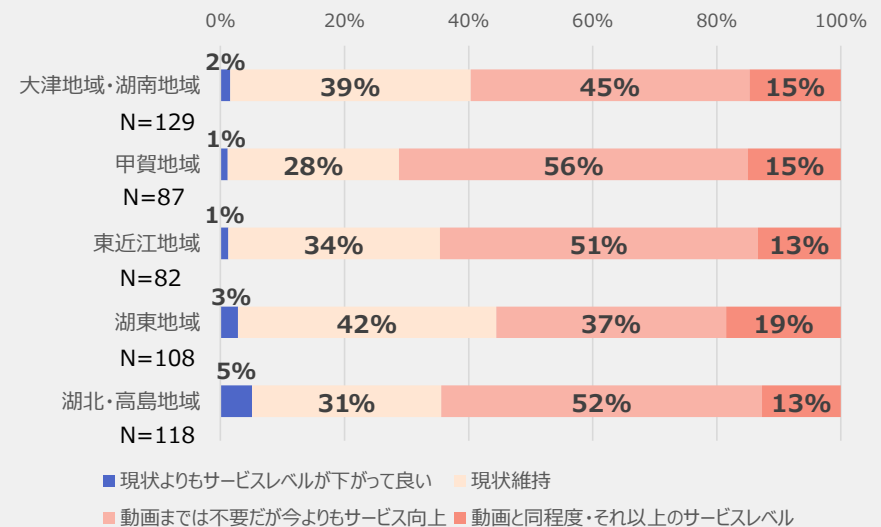
②対話結果 県内居住者 将来の公共交通の意向

●将来の公共交通として、湖東地域以外は「動画※までは不要だが今よりもサービス向上」を求める割合が多い

▼将来の公共交通として求めるレベル



▼将来の公共交通として求めるレベル（地域別）



※動画：「SHIGA SMART ACCESS 2040s」

滋賀県の2040年代における理想的な交通の将来像のイメージを共有するため、地域4分類別に描いた動画をアンケート時に再生

▼動画キャプチャ（左：都市部（地域①）、右：郊外2（地域④））

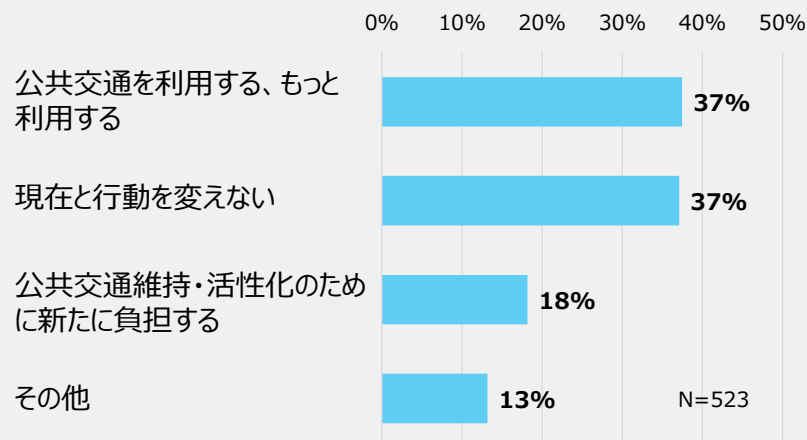


県民トーク

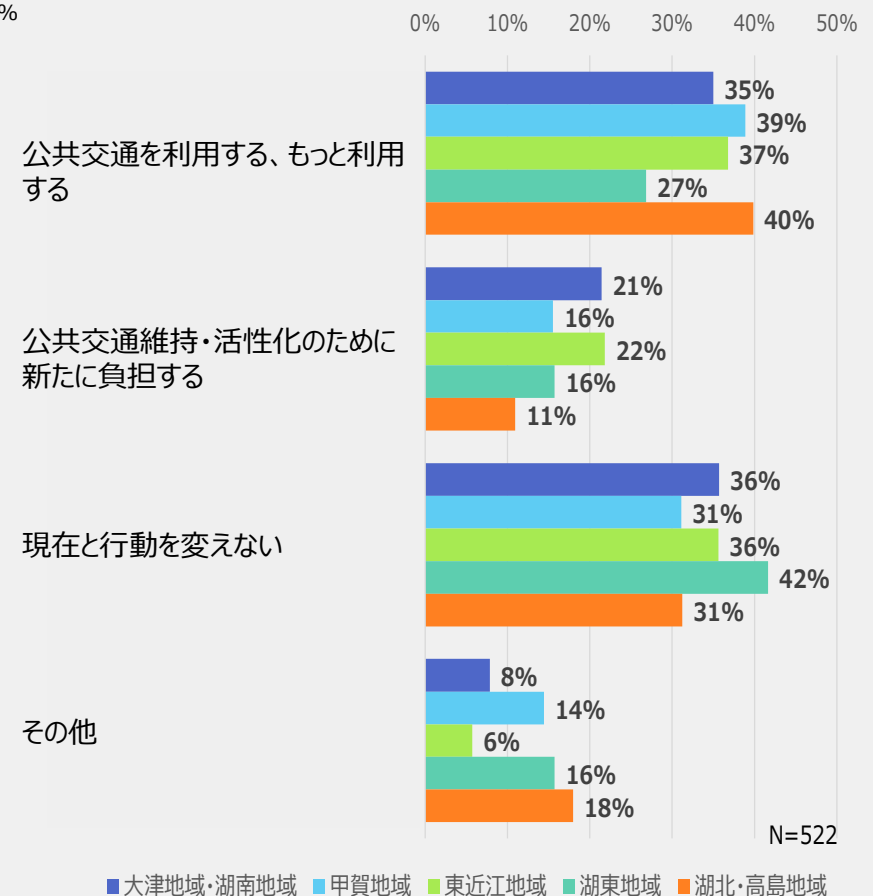
②対話結果 県内居住者 行動意向

●公共交通の状況を踏まえた意向としては、全体では「公共交通を利用する・もっと利用する」が最も多いが、地域により異なる

▼公共交通の状況を踏まえた行動意向



▼公共交通の状況を踏まえた行動意向（地域別）



▼公共交通の状況を踏まえた行動意向（その他：自由記述）

- 運賃が下がれば利用する
- 運行本数が増えるならば利用する
- 高齢者の免許返納後のことを考えると公共交通の維持は重要

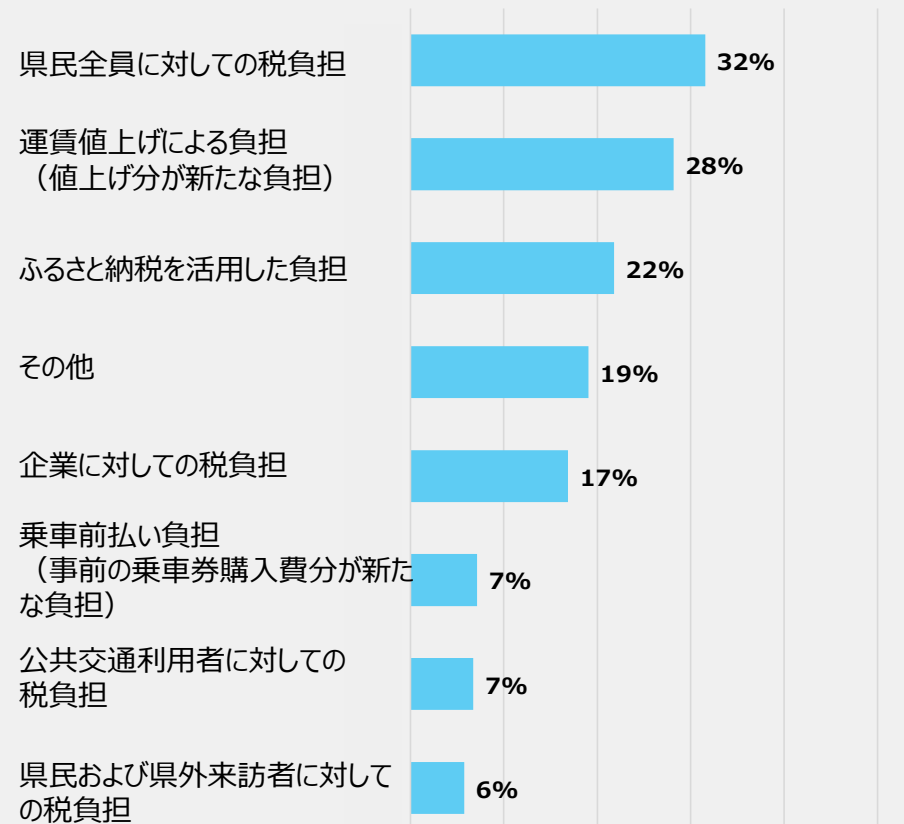
等

県民トーク

②対話結果 県内居住者 費用負担の意向

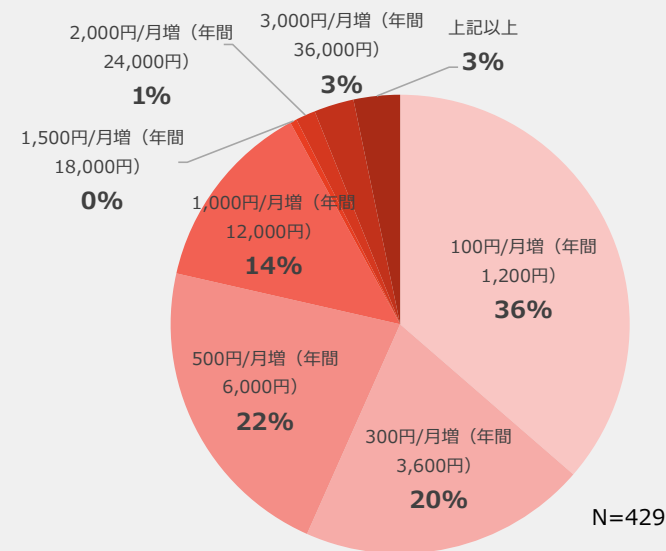
- 公共交通への新たな負担が必要になった場合の負担方法は「県民全体に対しての税負担」は約3割
- 回答があった中では、許容額は100円/月額（年間1,200）円が最も多かった。ただし、「負担をしたくない」という声もあった。

▼公共交通への新たな負担が必要となった場合の望ましい負担方法



N=504

▼負担に対しての許容額



N=429

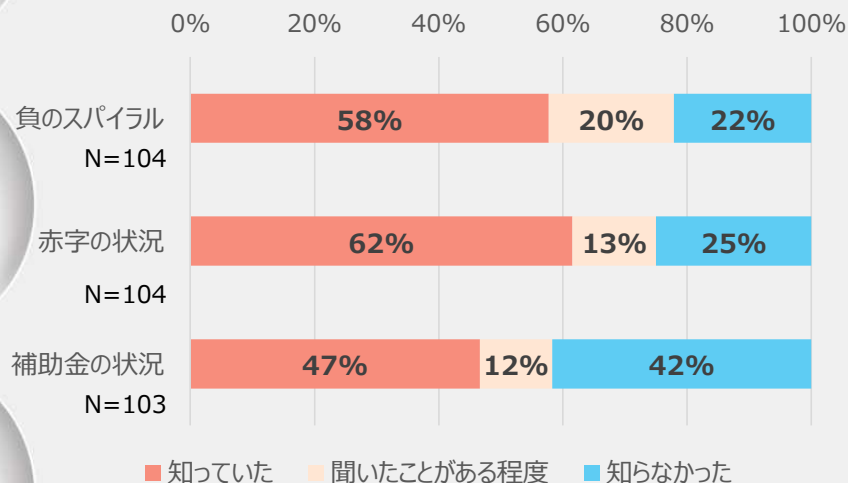
※平均値：558.7円/月

県民トーク

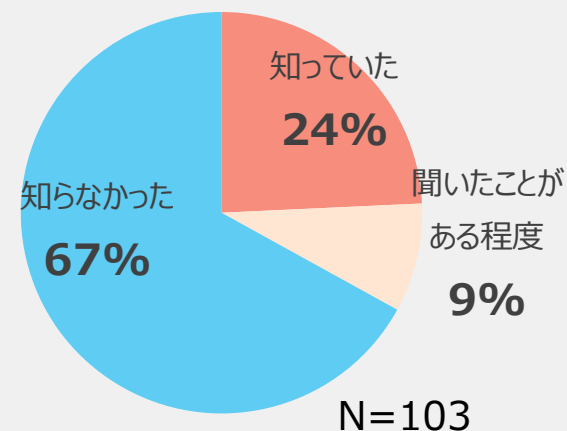
②対話結果 県外来訪者 公共交通の認知度

●公共交通が置かれている状況は過半数が聞いたことがある・知っていたと回答する一方、公共交通の議論は約7割が知らなかったと回答

▼公共交通がおかれている状況の認知度



▼滋賀県での公共交通の議論に対する認知度



【事前提示内容】

○負のスパイラル

自家用自動車へのシフトや少子高齢化による人口減少等により、利用者が減少し、その結果、交通事業者の経営状況は厳しくなり、サービス水準の低下が進み更に利用者が減少するという負のスパイラルに陥っています。

○赤字状況

公共交通の輸送人員は減少しており、また、県内の公共交通(路線バス)のうち、約8割の路線が赤字となっています。このまま利用者数減少が続くと既存路線の維持が困難になり、公共交通が廃止となるおそれがあります。

○補助金の状況

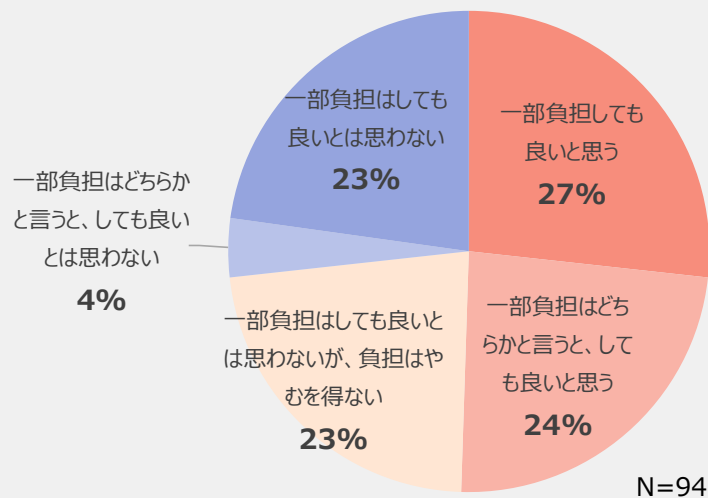
県内の公共交通に対しては、既に県、市、町により約3割の費用負担が行われており、それにより維持ができています。

県民トーク

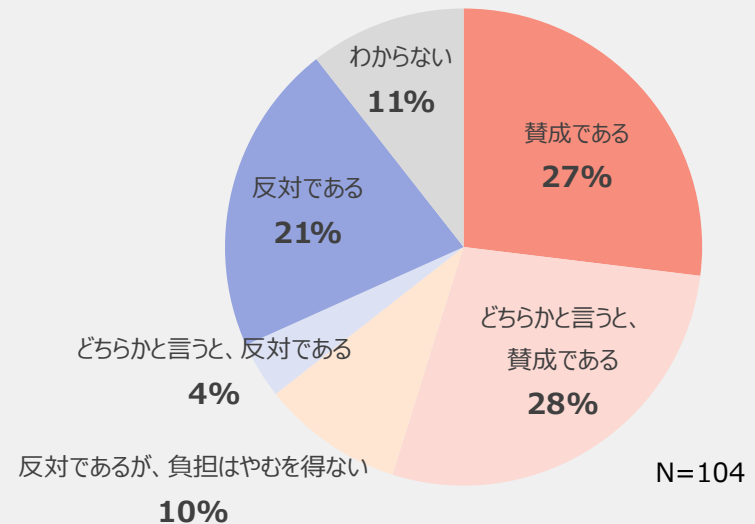
②対話結果 県外来訪者 費用負担の意向

- 県外来訪者のうち、滋賀県来訪時の費用負担を許容する割合は7割以上
- 国民や企業等への公共交通維持・活性化のための新たな負担を許容する回答が6割以上

▼ 滋賀県来訪時の新たな費用負担の意向



▼ 国民や企業等へ公共交通維持・活性化のために新たな負担を求めることに対する意向



県民トーク

②対話結果 まとめ

公共交通の必要性

- ・公共交通をほぼ使わない人も含め、ほとんどの人が必要と回答（95%）
- ・自身や親族が使う以外に「他の人に必要」と回答した人が約3割

・公共交通を使わない人についても、“他の人にとって必要”という理由で必要と回答していることから、公共交通の維持・活性化は県民にとって必要

将来の公共交通として求めるレベル

- ・現状よりもサービスレベルが下がって良い人はほとんどいない（2%）
- ・今よりもサービス向上を求める人は約6割

・将来の公共交通のサービスレベルについて、現状維持を最低限の目標とし、現状よりもサービスレベルの向上が必要

公共交通の状況を踏まえた行動意向

- ・公共交通を利用する・もっと利用する人が約4割
- ・現在と行動を変えない人も約4割

・公共交通が必要と思いつつも現在と行動を変えない人に対しての行動変容を促す仕組み構築が必要

新たな費用負担方法・許容額の意向

- ・県民全員に対しての税負担、運賃値上げによる負担が約3割
- ・許容額は100円/月が約4割であり、平均値は約560円/月

・公共交通を使わない人も含めた負担、受益者負担等、今後も議論が必要



- ・県民にとって公共交通は必要であり、将来的なサービスレベルは現状維持を最低限とし、向上を求めている意見もあることから、公共交通の維持・活性化の取組みを進める必要
- ・公共交通の維持・活性化のために、行動変容を促すことによる利用者増加（収入増）や既存ストックの有効活用等の種々の方法を図る必要あり

滋賀地域交通ビジョンの骨子

第1章 策定の趣旨

- 1.1 策定の必要性
- 1.2 策定のポイント
- 1.3 ビジョンの策定に当たって
- 1.4 その他の検討項目
- 1.5 滋賀地域交通ビジョンの基本的事項

第2章 滋賀の現状

- 2.1 地域の状況
- 2.2 公共交通の状況
- 2.3 県内住民の公共交通のニーズ
- 2.4 広域交通の状況

第3章 滋賀の交通をめぐる課題

- 3.1 地域交通の課題
- 3.2 将来の考慮すべき環境変化

第4章 滋賀県が目指す地域交通の姿

- 4.1 滋賀県が目指す地域交通とは
- 4.2 各地域公共交通計画が掲げる課題・現状
- 4.3 地域分類の設定
- 4.4 滋賀県が目指す地域交通の姿

第5章 目指す姿を実現するための 施策例

- 5.1 県域指標と地域指標の考え方
- 5.2 県域指標の設定
- 5.3 地域指標例の設定
- 5.4 地域指標を踏まえたギャップ分析
- 5.5 地域分類別の目指す姿を実現するための施策例

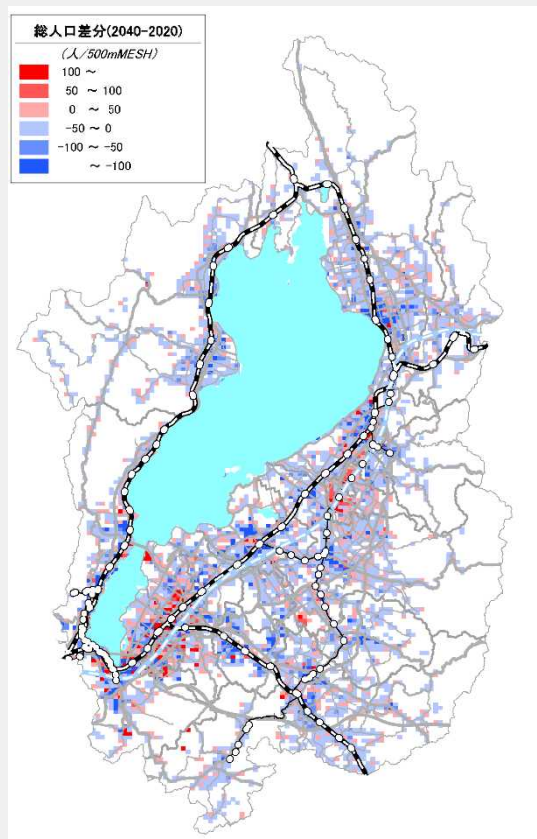
第6章 施策推進に向けて

- 6.1 目指す姿の達成に必要な費用の試算
- 6.2 財源や整備手法の検討

環境変化を踏まえた将来の動向

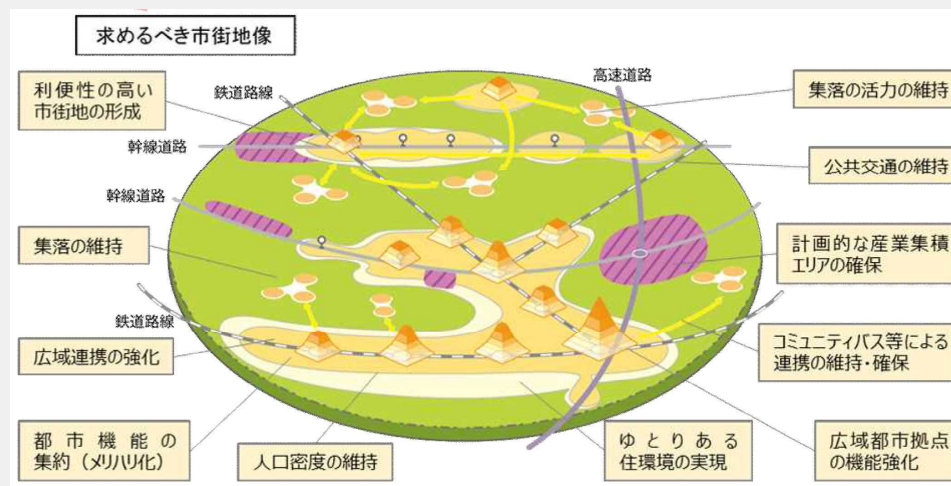
- 将来、人口が減少するエリアが大部分ではあるものの、人口増加エリアは広範囲に存在しており、公共交通のカバー範囲が広域化
- “拠点連携型都市構造”が進むことで集積は図られるものの、郊外部等で一定人口は残存。

▼総人口差分（2040-2020）



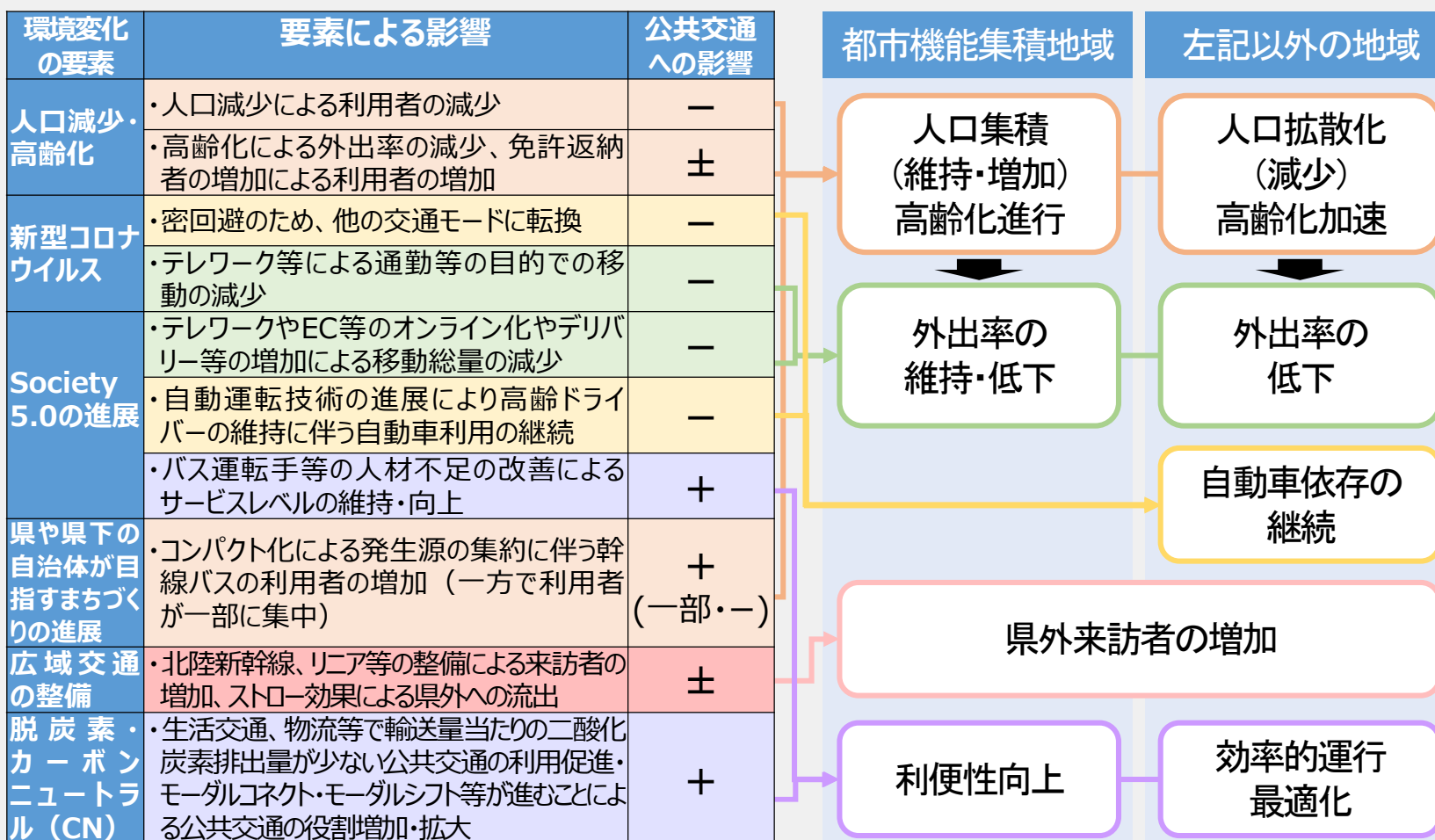
▼“拠点連携型都市構造”の概要

- ・ 自然を活かしながら、住み、働き、憩うために必要となる様々なサービス機能が集積した多様な拠点を形成し、それらを公共交通サービスで結ぶ都市構造
- ・ 一極集中的な都市構造を目指すものではなく、地域毎に存在する核となる多様な拠点（市街地の駅周辺、旧町役場周辺、農山村集落等）に居住や生活サービス機能の誘導を図るとともに、これらの拠点間を鉄道や路線バス等で、拠点外から拠点までは地域に応じた移動手段で結ぶことにより、階層的かつネットワーク化した都市構造を形成するもの



環境変化を踏まえた将来の動向

- 都市機能集積地域では、人口等の集積が図られ、公共交通の維持・利便性向上が期待できる一方で、それ以外の地域は、人口拡散化・高齢化・自動車依存継続等により公共交通の利用者が減少、分散化するため、公共交通の効率的運行、最適化が必要と予測



環境変化を踏まえた将来の検討事項

- “拠点連携型都市構造”に基づき拠点間、拠点内および分散化した集落間の移動において、需要に応じた最適化された移動手段が構築されると想定
- それまでの過程において、公共交通に対する検討や段階的な整備等、目指す姿を達成するための財源についても議論が必要

